



30年3月期 決算説明会

平成30年5月17日

株式会社セリア

JASDAQ

証券コード 2782

本日ご説明申し上げる今後の見通し等は、現在入手可能な情報から弊社の経営陣が判断したものでありますが、様々な要素により将来の事業を取り巻く環境が変動することも考えられます。

従いまして、将来の業績等につきましては本日ご説明申し上げます内容と大きく異なる可能性がございますことをご了承ください。

- 売上高、営業利益、経常利益、当期純利益ともに過去最高。
- 売上高営業利益率は、10.4%と前期同様。
- 売上総利益率は前期から0.3ポイント上昇。
(雑貨、直営店の販売構成比増加が寄与)
- 既存店売上高は前期比101.2%と想定を上回る。
- 人件費率の上昇により、売上高販管費比率は前期から0.3ポイント上昇。
- 直営店新店は、計画どおり150店舗で着地。

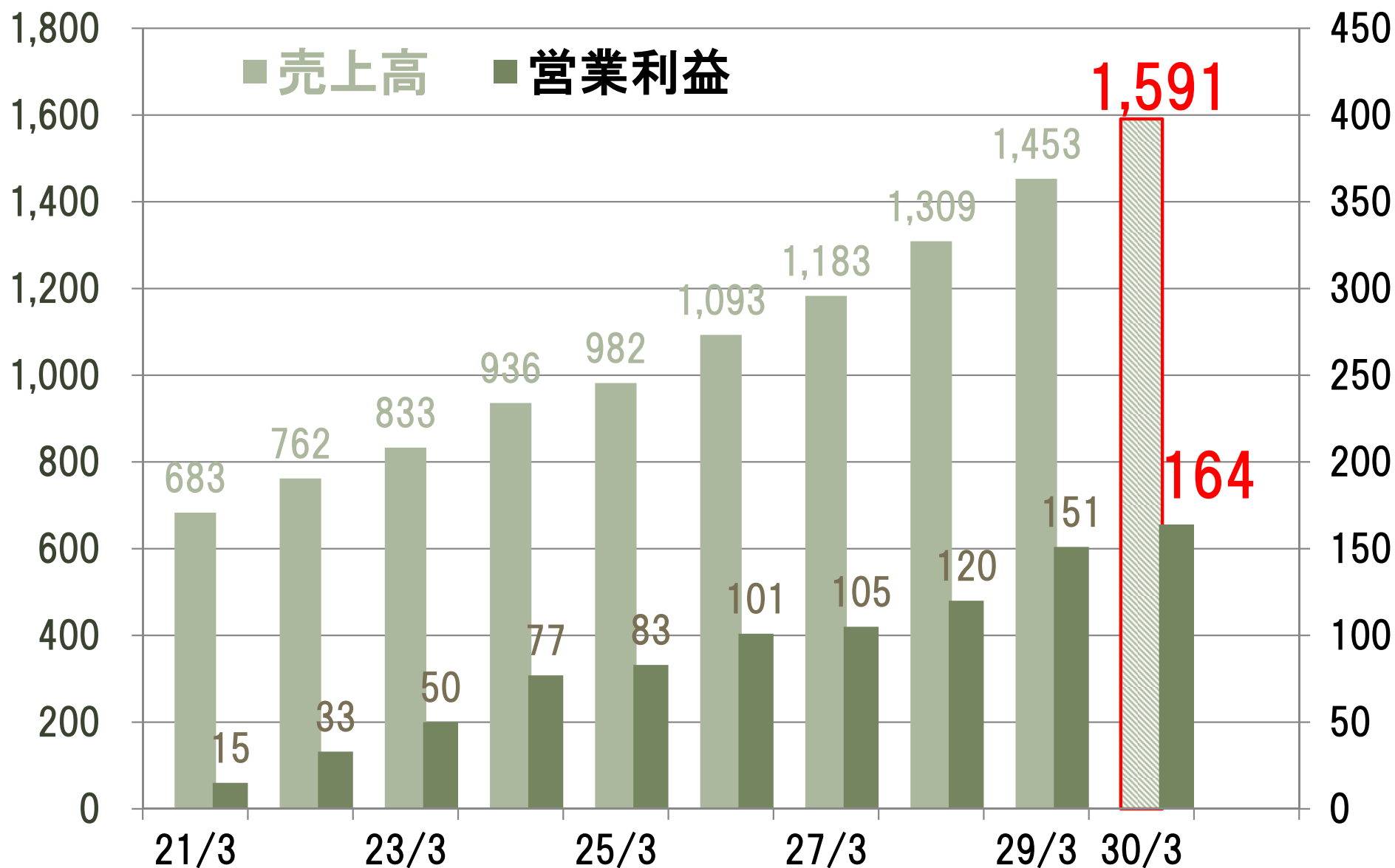
(単位:百万円)

	28年3月期	29年3月期	30年3月期
売上高	130,983 (+10.7%)	145,328 (+11.0%)	159,114 (+9.5%)
営業利益	12,016 (+14.2%)	15,171 (+26.3%)	16,479 (+8.6%)
経常利益	12,063 (+13.3%)	15,218 (+26.2%)	16,500 (+8.4%)
当期純利益	7,951 (+18.3%)	10,533 (+32.5%)	11,316 (+7.4%)

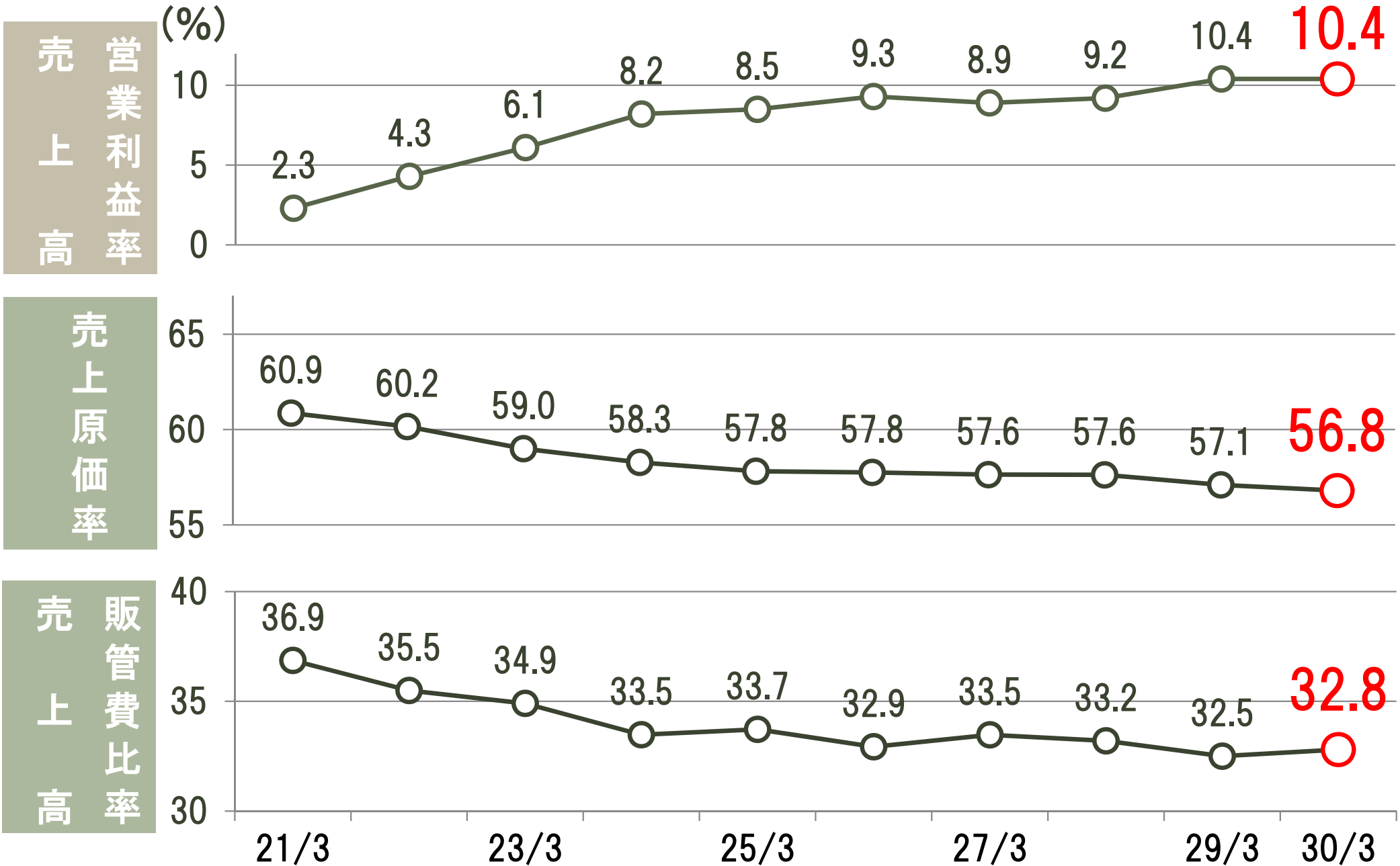
%表示は、対前年増減率

売上高・営業利益の過年度推移

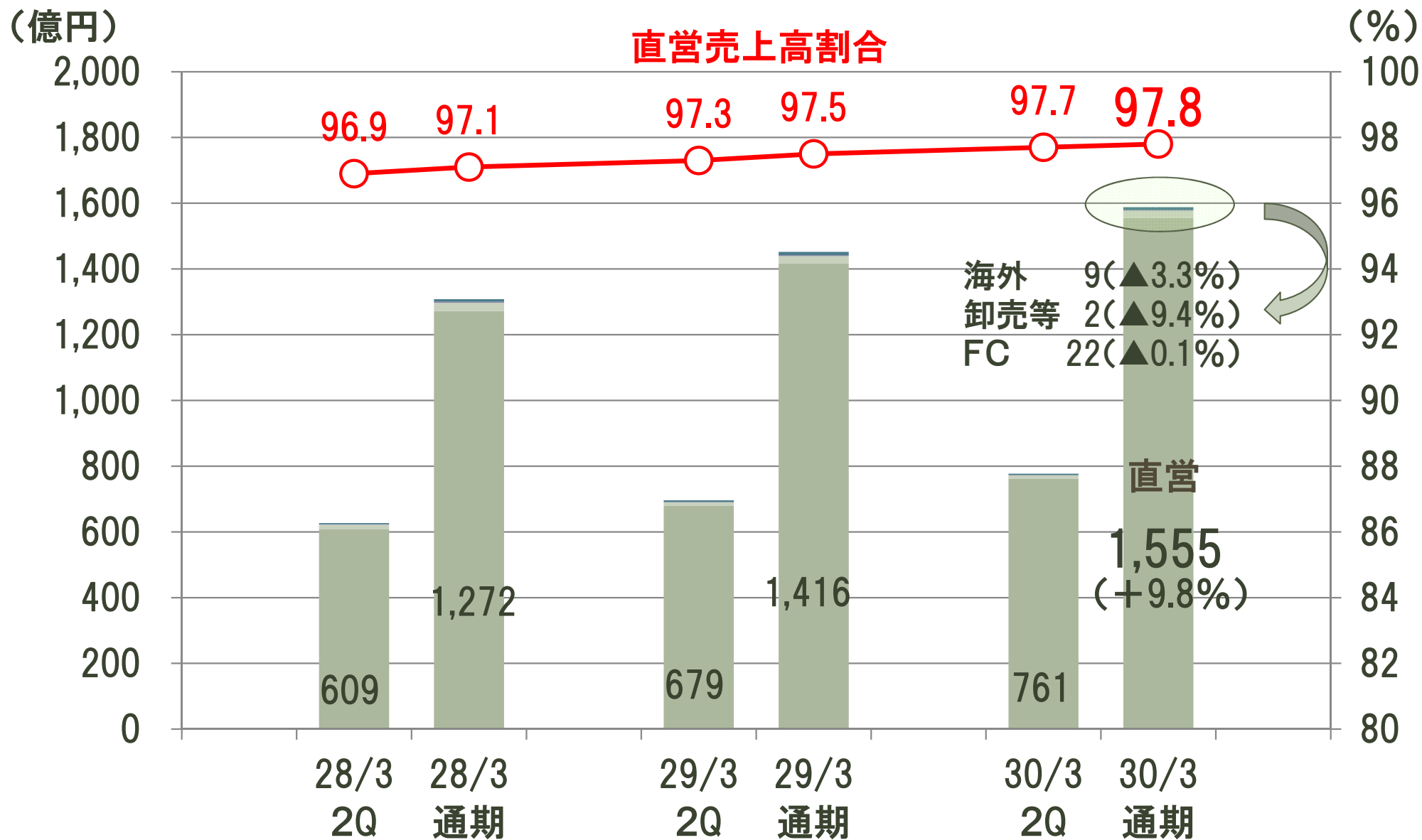
(単位:億円)



営業利益率・原価率・販管費比率の推移

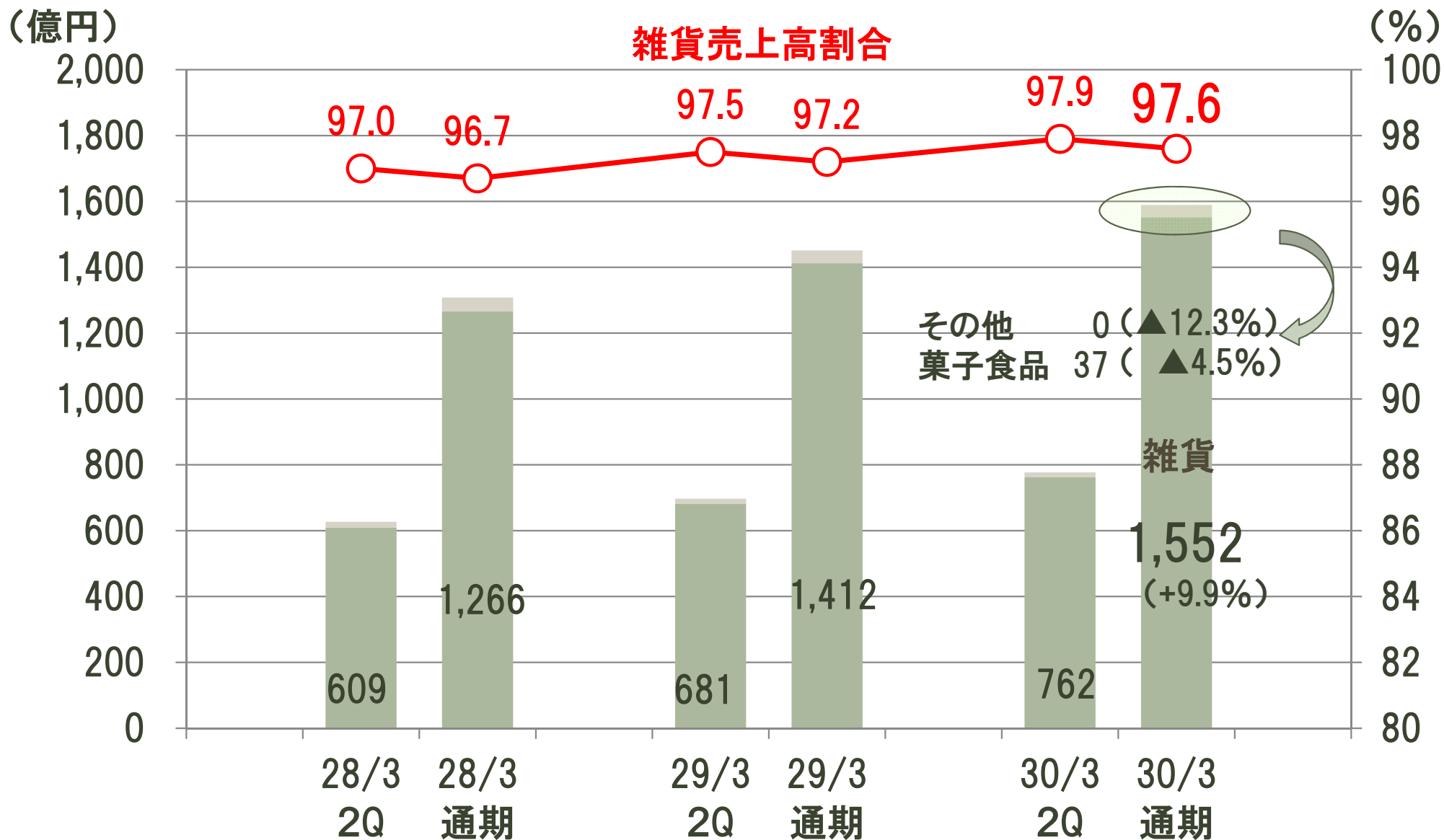


事業部門別売上高



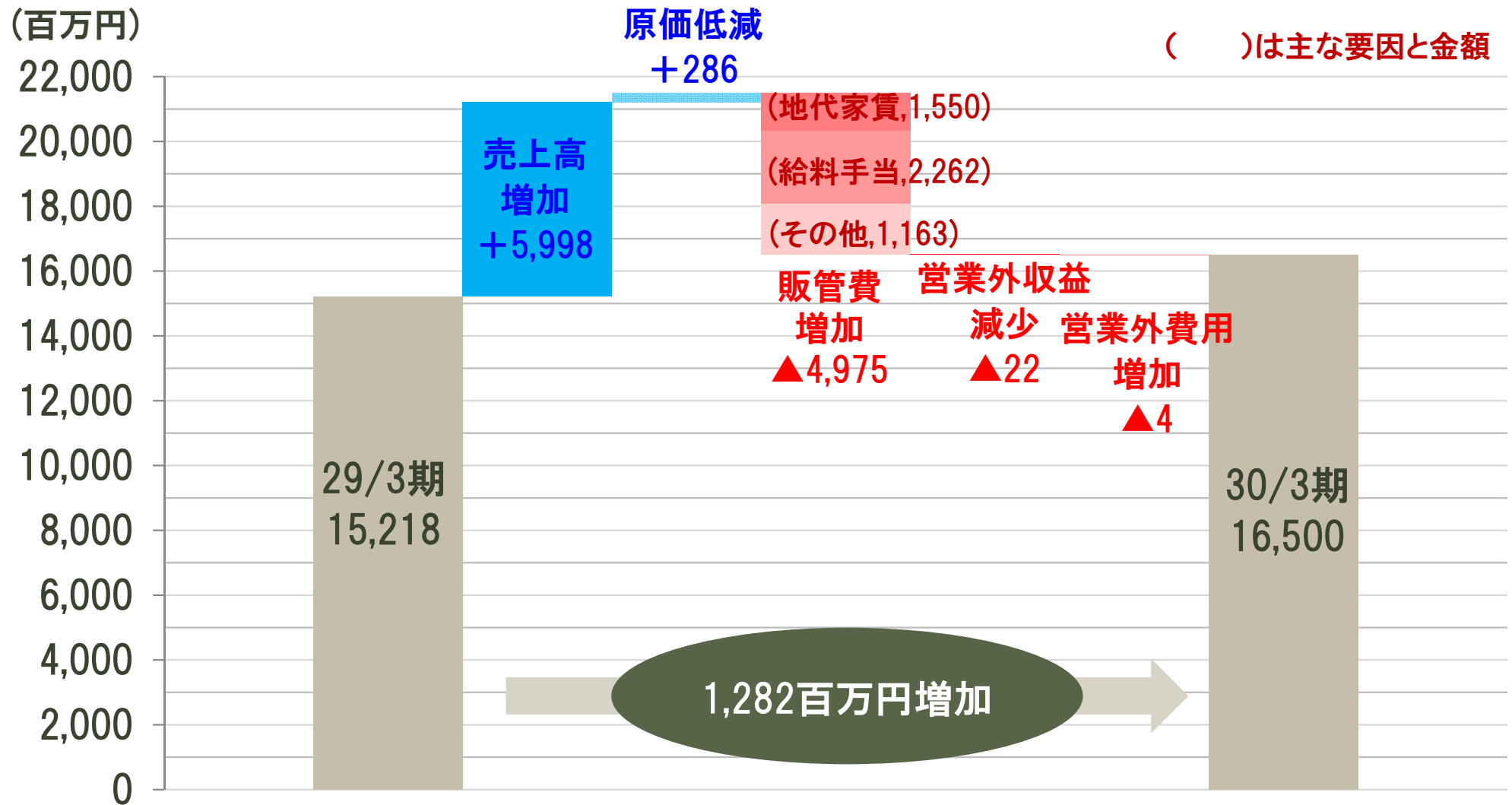
直営売上高割合は継続して増加(前期比+0.3ポイント)。

商品区分別売上高



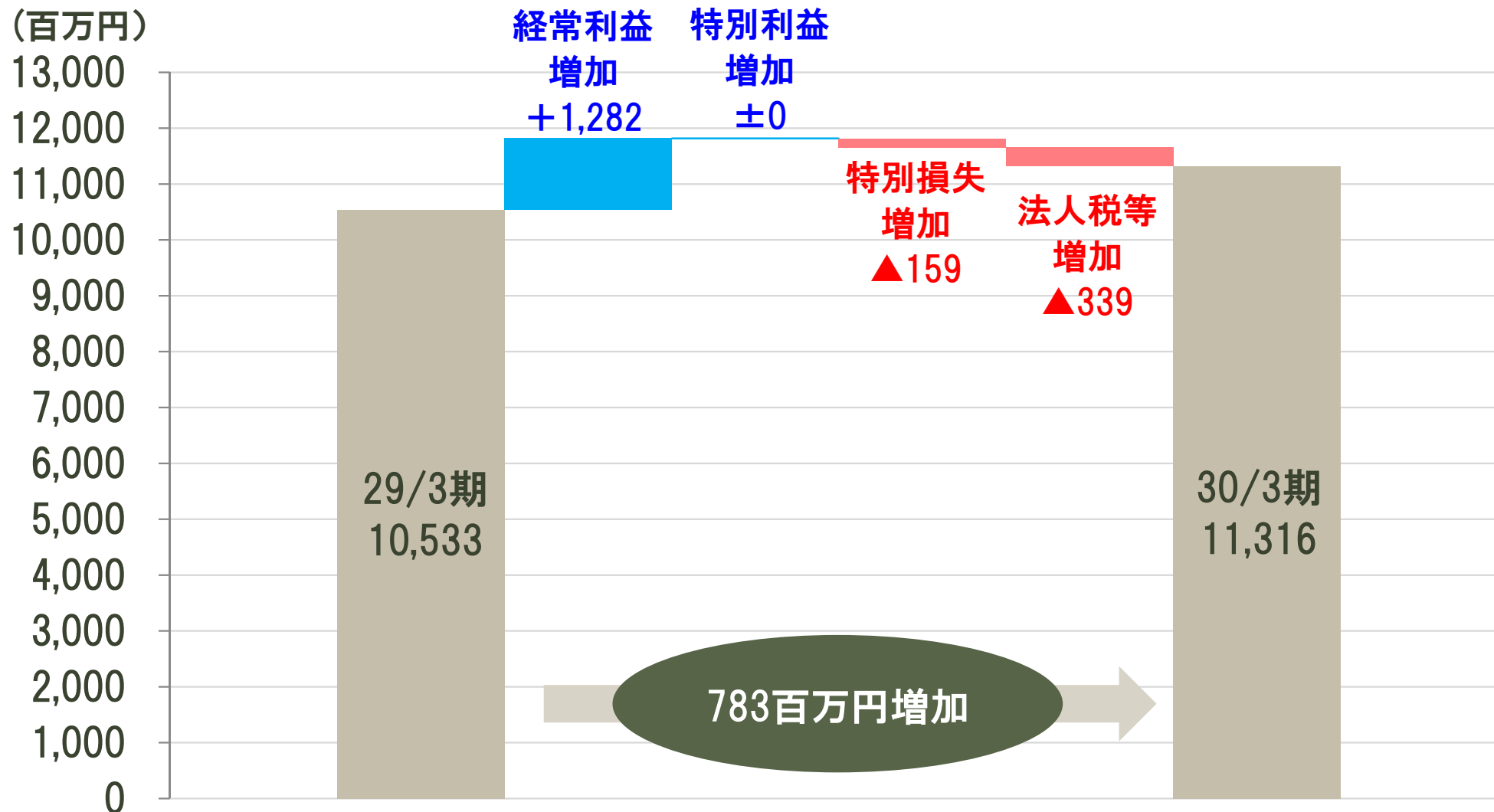
雑貨売上高割合は継続して増加(前期比+0.4ポイント)。

経常利益増減要因



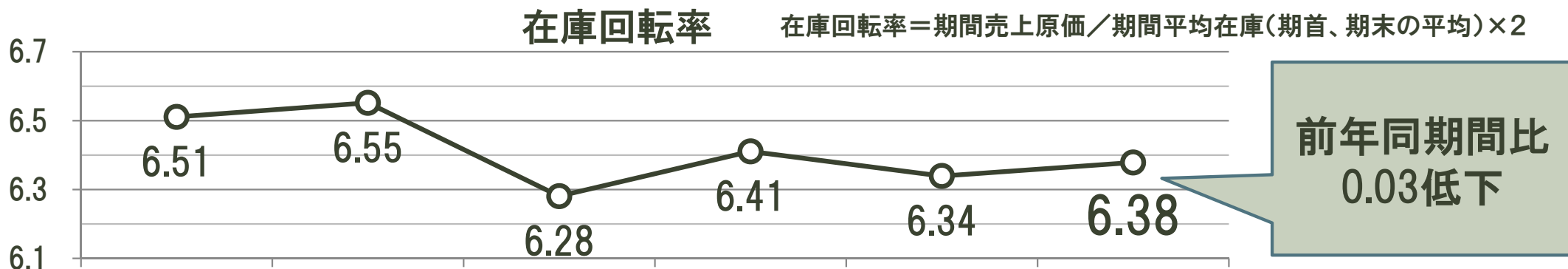
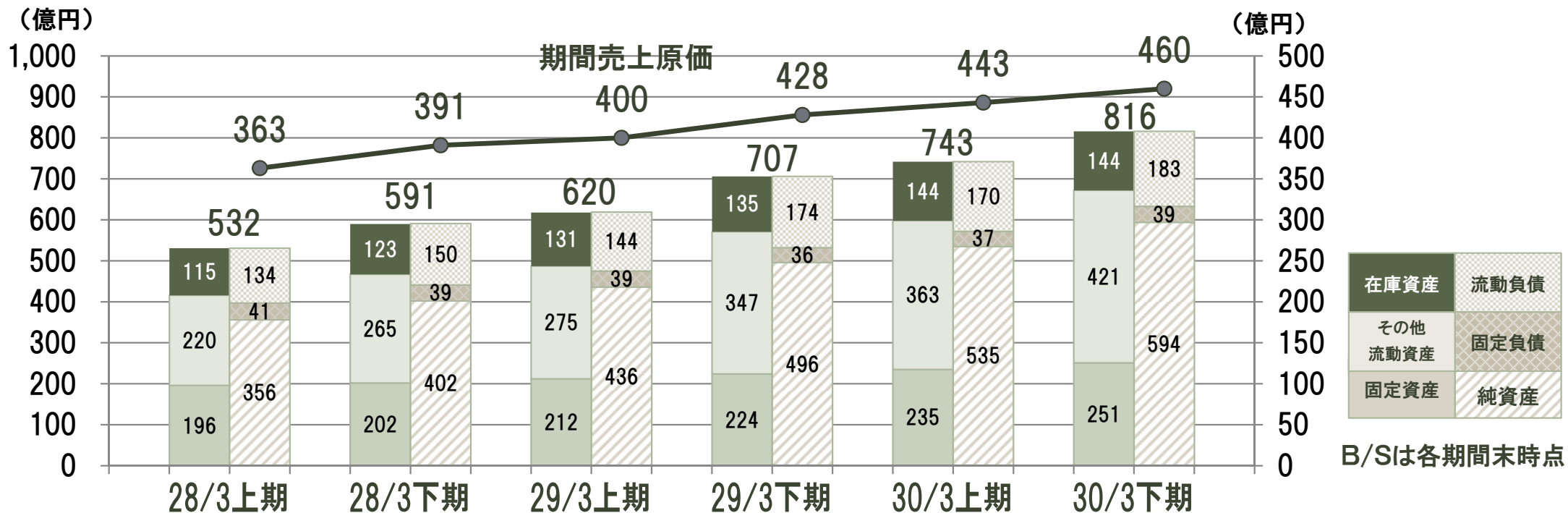
パート従業員の時給上昇等により人件費が増加。

純利益増減要因



経常利益の増加以外は、特段の純利益要因なし。

在庫回転の状況



規模を拡大しつつ、在庫効率の維持・改善を目指す。

キャッシュフローの状況

(単位:百万円)

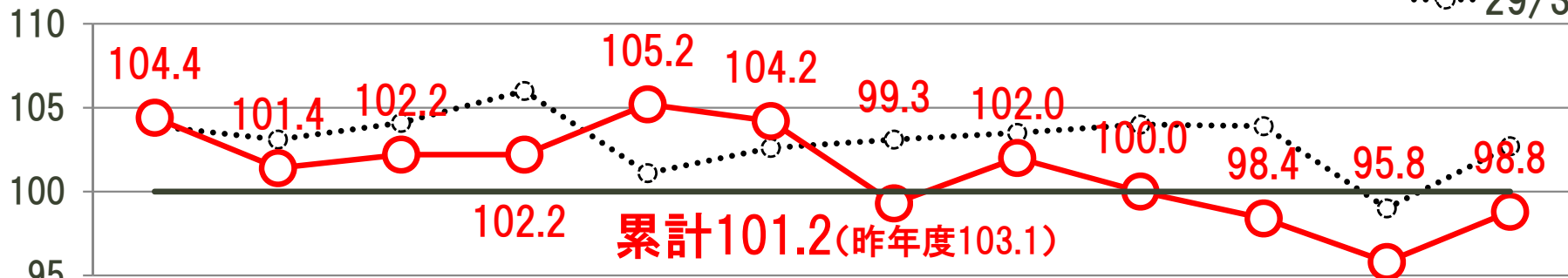
主要項目	前事業年度	当事業年度
営業キャッシュ・フロー	14,113	13,843
税引前四半期純利益	15,143	16,265
減価償却費	2,646	2,707
たな卸資産の増減額(増加:△)	△1,196	△871
仕入債務の増減額(減少:△)	1,044	348
法人税等の支払額	△4,377	△4,952
投資キャッシュ・フロー	△4,054	△4,599
有形固定資産の取得による支出	△3,231	△3,671
差入保証金の差入による支出	△991	△1,055
財務キャッシュ・フロー	△2,244	△2,615
借入・社債等(返済:△)	△433	△460
配当金の支払額	△1,137	△1,516
リース債務の返済による支出	△673	△639

当事業年度末で借入金は完済。

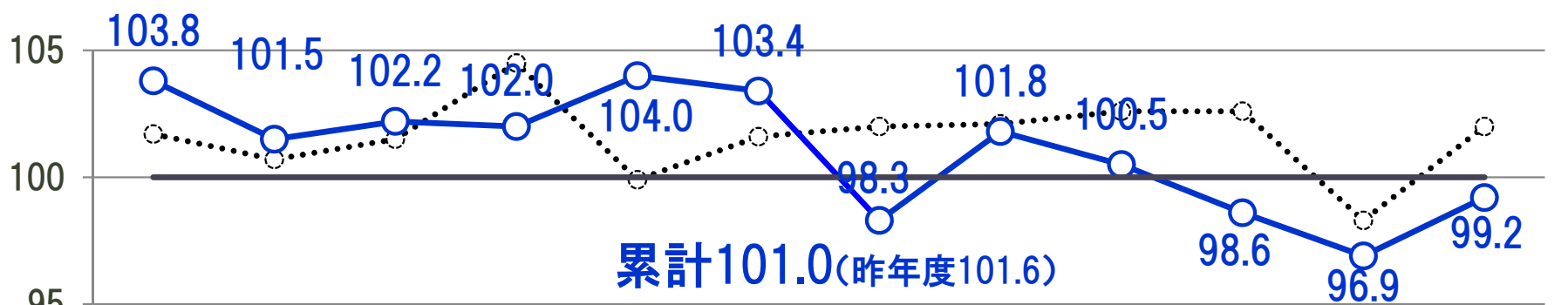
直営既存店前年同月比推移

29/3

売上高



客数

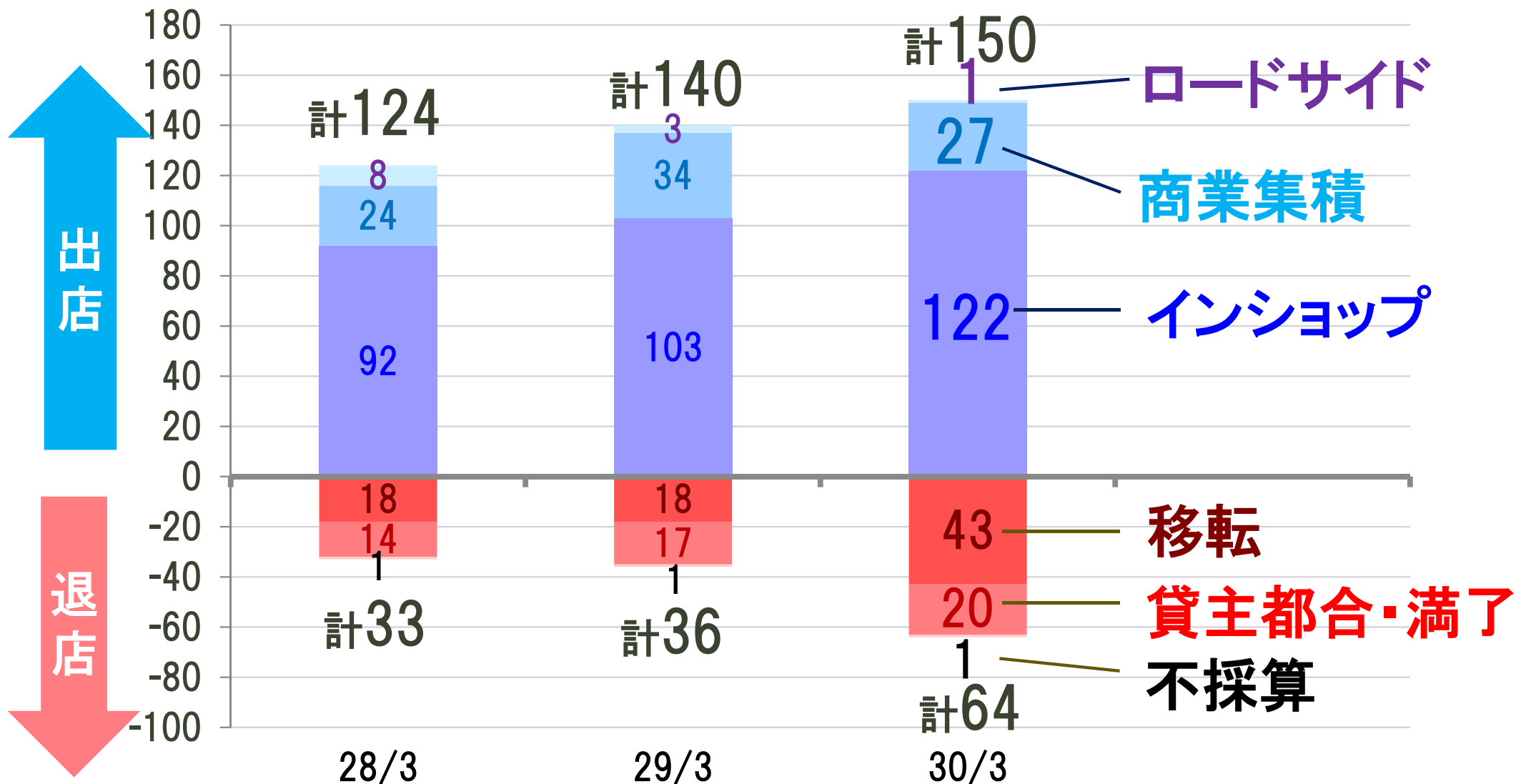


客単価



客数増加により、想定を上回る。

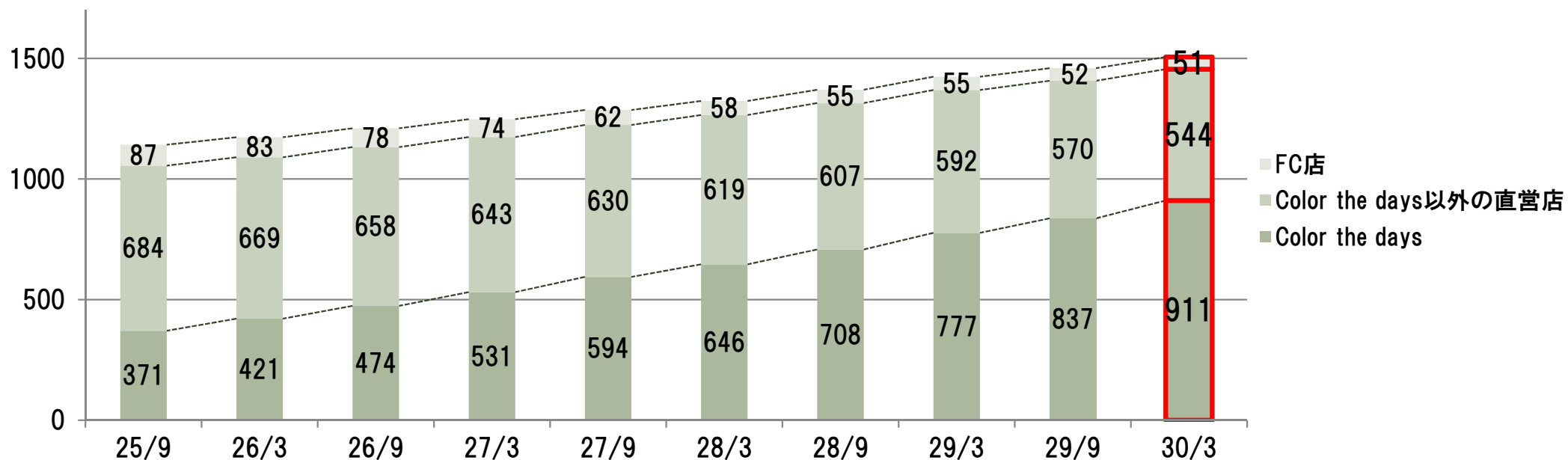
直営店出退店の状況



移転に伴う退店が増加。

店舗数推移

		29年3月期			30年3月期		
		上期	下期	年間	上期	下期	年間
直営店(FC店)	出店	67 (0)	73 (0)	140 (0)	65 (0)	85 (1)	150 (1)
	退店	17 (3)	19 (0)	36 (3)	27 (3)	37 (2)	64 (5)
	増加数	50(△3)	54 (0)	104(△3)	38(△3)	48(△1)	86(△4)

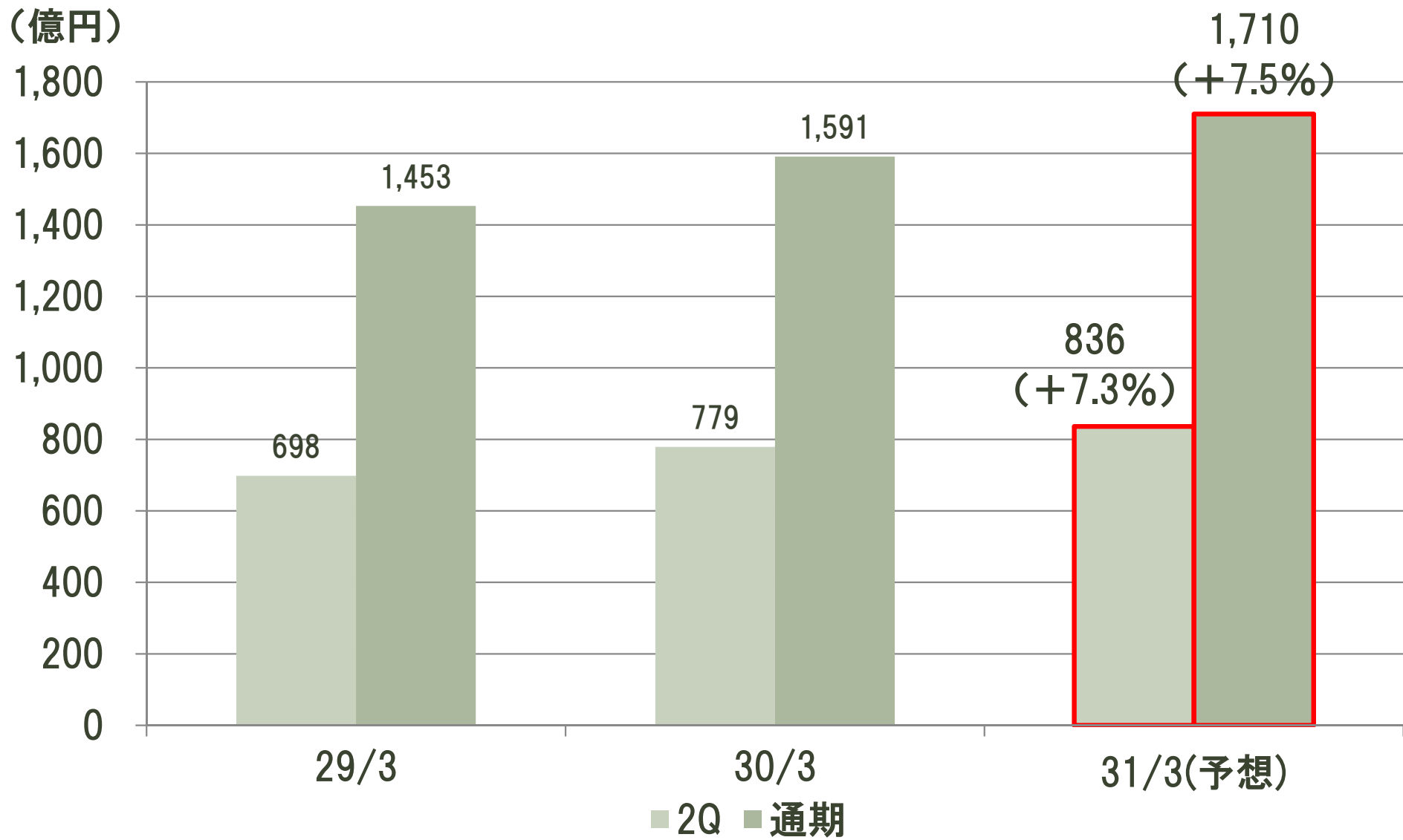


地域別店舗状況

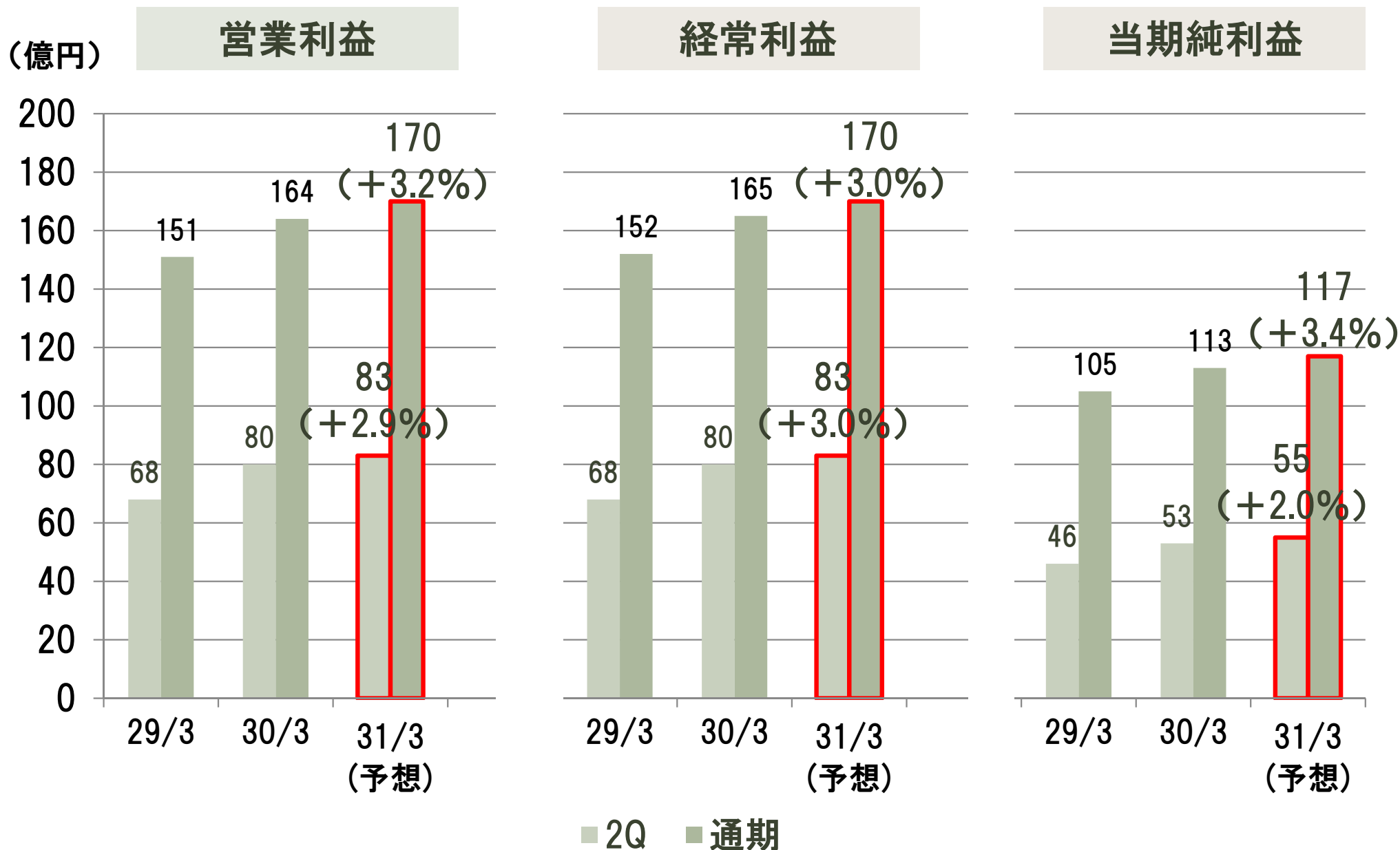
	28年3月期			29年3月期			30年3月期			
	出店	退店	期末	出店	退店	期末	出店	退店	期末	売上 前期比
北海道東北	10	5	164	16	3	177	16	2	191	<u>109.7</u>
関東甲信越	37	9	357	45	8	394	54	19	429	<u>113.5</u>
東海北陸	17	9	348	30	12	366	20	19	367	<u>104.0</u>
関西	29	8	201	18	2	217	23	3	237	<u>110.1</u>
中国四国	19	14	85	17	2	100	11	4	107	<u>111.9</u>
九州沖縄	12	4	168	14	12	170	27	22	175	<u>108.3</u>
合計	124	49	1,323	140	39	1,424	151	69	1,506	<u>109.6</u>

全国的にバランス良く増加。

売上高の推移および予想



利益の推移および予想



31年3月期の業績予想

(単位:百万円)

	30年3月期実績			31年3月期予想		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期
売上高	77,919	81,195	159,114	83,600	87,400	171,000
営業利益 (売上比)	8,062 (10.3%)	8,417 (10.4%)	16,479 (10.4%)	8,300 (9.9%)	8,700 (10.0%)	17,000 (9.9%)
経常利益 (売上比)	8,058 (10.9%)	8,442 (10.4%)	16,500 (10.4%)	8,300 (9.9%)	8,700 (10.0%)	17,000 (9.9%)
当期純利益 (売上比)	5,394 (6.9%)	5,922 (7.3%)	11,316 (7.1%)	5,500 (6.6%)	6,200 (7.1%)	11,700 (6.8%)

業績予想の前提

直営既存店前年比 99.9%(上期99.5%、下期100.3%)

直営出退店 出店 150 退店 55

FC出退店 出店 0 退店 6

既存店、出店数はほぼ横ばいを見込む。スクラップアンドビルドは前年並。

当社の取組み

■ 商品政策

- ・顧客層拡大を狙いとした商品開発に注力
- ・データに基づく改廃基準による商品ポートフォリオ管理の強化

■ 店舗政策

- ・多様な出店ニーズへの積極的対応
- ・持続的な出店拡大を見据えた店舗開発・運営基盤の強化

■ 業務効率化

- ・働きやすさと効率化の両立を継続的に実行
- ・物流オペレーション改革による効率性向上